

東北地方 1か月予報

(6月26日から7月25日までの天候見通し)

平成22年6月25日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

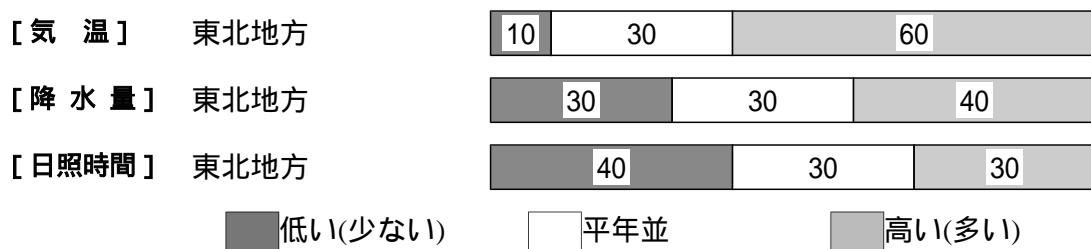
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

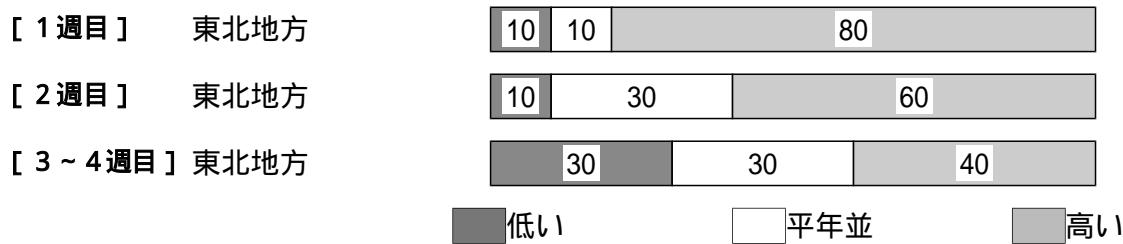
向こう1か月の気温は、高い確率が60%です。

週別の気温は、1週目は高い確率が80%、2週目は高い確率が60%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



<予報の対象期間>

1か月 : 6月26日(土) ~ 7月25日(日)

1週目 : 6月26日(土) ~ 7月2日(金)

2週目 : 7月3日(土) ~ 7月9日(金)

3~4週目 : 7月10日(土) ~ 7月23日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は7月2日

3か月予報:7月22日(木) 14時

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
青森	20.2	94.5	169.2	18.4	19.4	21.0
深浦	20.4	137.3	169.4	18.8	19.7	21.3
むつ	18.6	119.9	143.7	16.9	17.9	19.5
八戸	19.2	113.8	157.3	17.4	18.5	20.1
秋田	21.9	179.0	160.1	20.3	21.1	22.7
盛岡	20.9	159.6	133.5	19.3	20.3	21.7
大船渡	20.1	178.8	136.6	18.5	19.5	20.9
宮古	19.0	141.6	134.6	17.2	18.4	19.9
仙台	21.1	171.9	113.1	19.4	20.5	21.9
石巻	20.5	140.4	132.6	18.8	19.8	21.3
山形	22.3	147.4	138.3	20.7	21.7	23.1
新庄	21.4	191.1	137.8	19.9	20.8	22.2
酒田	22.2	189.2	161.8	20.6	21.5	23.0
福島	22.6	154.7	117.8	20.8	22.0	23.4
若松	22.5	169.0	148.2	21.0	22.0	23.3
白河	21.1	196.4	113.6	19.5	20.6	21.9
小名浜	20.9	142.6	132.5	19.5	20.3	21.7

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.3 ~ +0.5	87 ~ 112	91 ~ 108
東北日本海側	-0.3 ~ +0.5	83 ~ 115	90 ~ 107
東北太平洋側	-0.3 ~ +0.5	84 ~ 112	90 ~ 111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6 ~ +0.6	-0.7 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.7
東北日本海側	-0.5 ~ +0.6	-0.6 ~ +0.6	-0.5 ~ +0.6
東北太平洋側	-0.8 ~ +0.5	-0.9 ~ +0.7	-0.6 ~ +0.8

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成22年6月25日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月 (6月26日～7月25日) :

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は高い確率が60%です。

1週目 (6月26日～7月2日) :

前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は高い確率が80%です。

2週目 (7月3日～7月9日) :

前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は高い確率が60%です。

3～4週目 (7月10日～7月23日) :

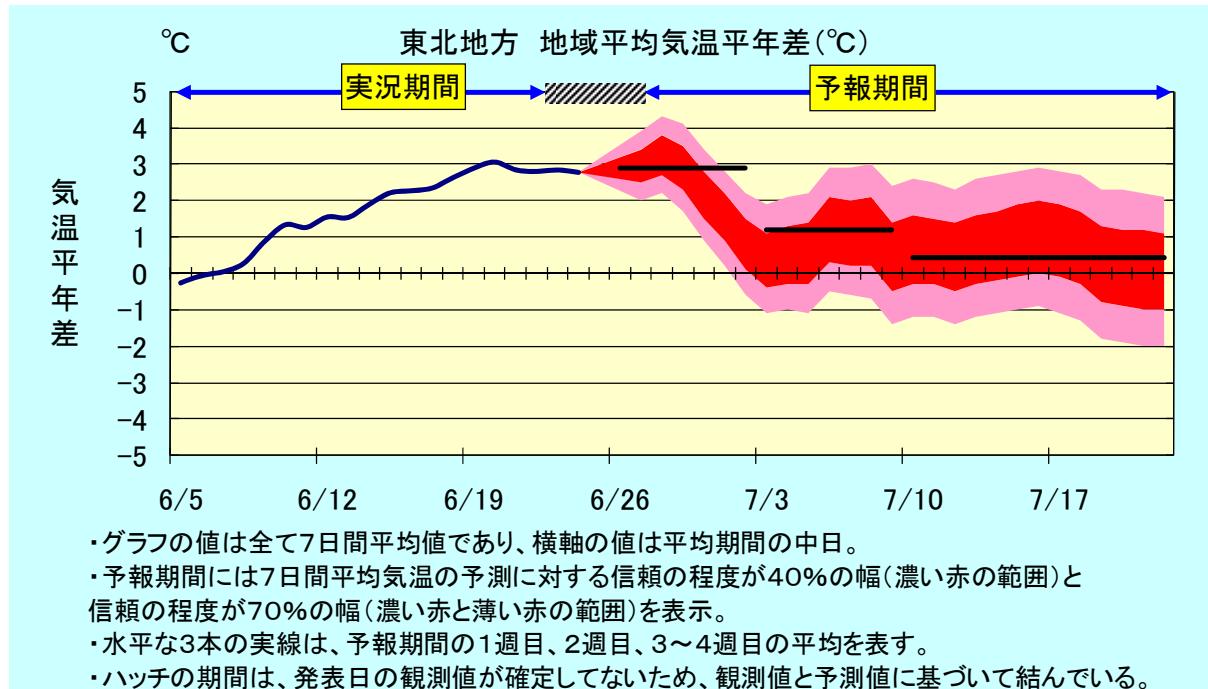
前線や気圧の谷の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
平均気温は各階級の確率の偏りは小さい。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3～4週目
東北日本海側	11.6日	2.7日	2.7日	6.2日
東北太平洋側	9.7日	2.1日	2.5日	5.1日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と予測資料

地域平均気温平年差の予測資料では、週別の平均気温は、1週目、2週目は平年を上回り、3～4週目は平年付近の予想となっている。

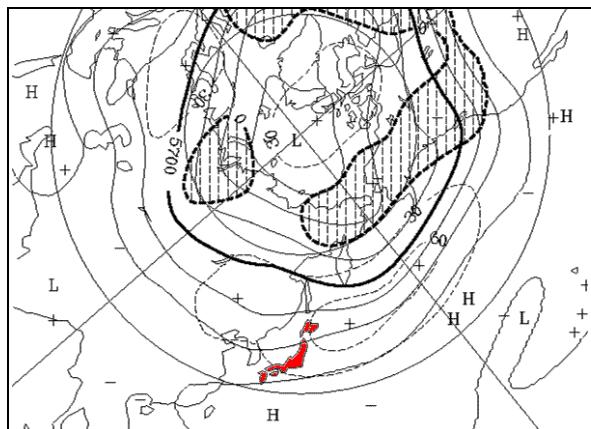


3. 1か月平均と1, 2週目の上空の大気の流れの予想 (500hPa 予想天気図)

1か月平均: 日本付近は、中国東北区から東に連なる正偏差におおわれる。また、西谷傾向となっており、南から湿った暖気が流入しやすい。高温が予想される。

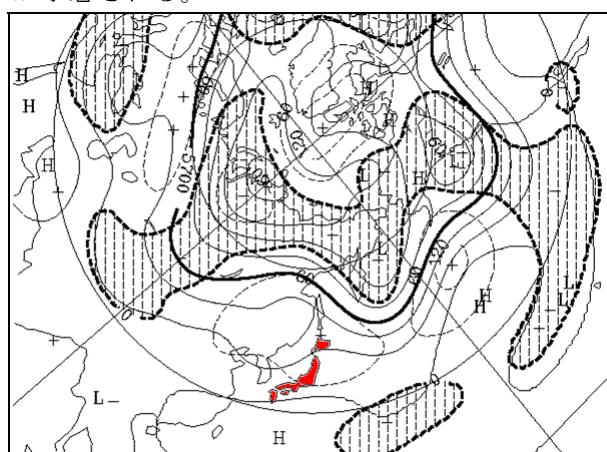
1週目: 日本付近を含む極東域は広く正偏差におおわれる。また、朝鮮半島から日本海中部が気圧の谷となり、東北地方には南から湿った暖気が流入しやすい。850hPa 気温予想図 (図略) でも、正偏差におおわれ、高温が予想される。

2週目: 日本付近はカムチャッカ半島の南に中心を持つ正偏差におおわれる。沿海州付近は負偏差となっており、西谷が明瞭となる。850hPa 気温予想図 (図略) でも、正偏差におおわれ、高温が予想される。

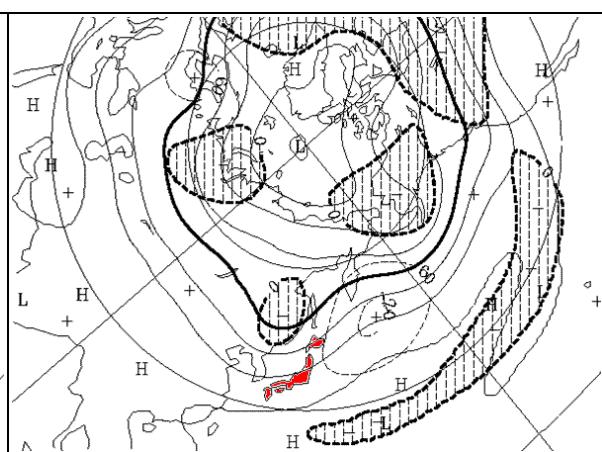


1か月平均 500hPa 予想天気図

(図の見方は1, 2週目と同じ
ただし平年差の間隔は30m毎)



1週目平均 500hPa 予想天気図



2週目平均 500hPa 予想天気図

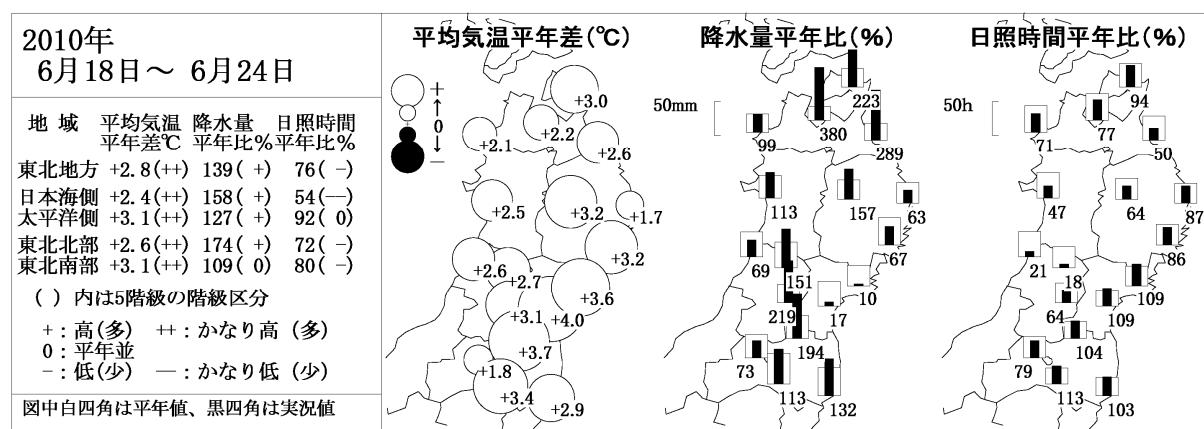
実線は、等高度線 (間隔 60m)、点線は、平年差 (間隔 60m)

陰影部は、負偏差で一般に寒気に対応する 白抜きは、正偏差で一般に暖気に対応する

4. 最近1週間 (6月18日～6月24日) の天候の経過

この期間、前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かった。20日から23日にかけて上空に寒気を伴った気圧の谷の影響で雷雨となった所があり、青森県で浸水などの被害が、宮城県でひょうによる被害が発生した。また、日本付近に南から暖気が入った影響で、気温はかなり高くなつた。

平均気温は東北地方でかなり高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差 (比)